

平成 26 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

- 日 時 平成 26 年 6 月 26 日（木）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 7 人
同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長、企画財政部長、健康福祉部長、
環境部長、経済部長
- 次 第 1 ポカテロ姉妹都市訪問団の相互派遣について
2 市長政策ヒアリング（サマーレビュー）の実施について
3 公共施設マネジメントの取り組みについて
4 いわみざわ健康まつりについて
5 いわみざわ環境週間について
6 2014 いわみざわ彩花まつりについて
7 その他について

1 ポカテロ姉妹都市訪問団の相互派遣について

説明内容

（市長）

本日の案件でございますが、最初にポカテロ市との姉妹都市交流についてご説明いたします。お手元の資料 1 をご覧ください。

ポカテロ市との姉妹都市交流は昭和 60 年 5 月 20 日に姉妹都市の締結をいたしましてから今年で 29 年目を迎えることとなりました。これまで鳥インフルエンザや東日本大震災の影響等により、訪問が出来ない年もございましたが、岩見沢市からは市民、中高生訪問団が合わせまして 26 回、延べ 389 人がポカテロ市を訪問しております。またポカテロ市からは市民、中高生訪問団が計 24 回、延べ 378 人が岩見沢市を訪問していただいているところでございます。

続きまして、資料の 2 でございますが、まず、今年ポカテロ市から岩見沢市を訪問していただく中高生訪問団について、でございます。今年は中高生が 11 人、男性の団長 1 人の合計 12 人の訪問団が岩見沢に来られます。7 月 6 日にポカテロ市を出発いたしまして翌 7 日、午後 8 時 30 分過ぎ、新千歳空港に到着し、その日はメープルロッジの宿泊となります。

7 月 8 日から市内での交流事業が始まりまして、私のところに表敬訪問していただくほか、ホストファミリーとの対面式を行い、午後 5 時 30 分から市主催の歓迎会を行うこととしております。

11 日には彩花まつりでの観光踊りパレードに参加。22 日まで 16 日間の滞在期間中、市内の学校訪問、各種行事に参加いただくほか、さらには日本文化の体験などをしていただく予定でございます。お別れ会は 7 月 20 日を予定しております。

岩見沢滞在中は、市内の 12 組のご家庭にホームステイをしていただきまして、土曜・日曜日、祝日はホームステイ先のご家族との交流を楽しんでいただくことにしております。

続きまして、岩見沢市からの訪問団の派遣について、でございます。資料 3 となります。

派遣期間は 7 月 28 日から 8 月 12 日までの 16 日間となります。訪問団の構成は高校生が 4 人、中学生が 3 人、男女別では男性 2 人、女性 5 人、引率する男性の団長 1 人の合計 8 人でポカテロ市を訪問してまいります。

なお例年、市の職員が団長を務めておりますが、今年は総務部秘書課の岡勇輝（おかゆうき）が努めることとなっております。

また今年度は、募集定員 8 人に対し、7 人の応募であり、応募者全員が合格となりました。

ポカテロ滞在中の詳細なスケジュールはまだ届いておりませんが、ポカテロ市長主催の歓迎会、市内見学、あるいは大学訪問の見学等の行事に参加する予定でございます。

ポカテロ市には 8 月 10 日まで滞在をいたしまして、その後、サンフランシスコに移動いたします。サンフランシスコでは市内見学の他、例年恒例となっておりますが、サンフランシスコ在住の北海道出身者及びその子孫で構成いたします、北カリフォルニアどさんこ会の役員の皆様との夕食会が予定されているところでございます。

サンフランシスコには 1 泊いたしまして、翌日アメリカを離れ、8 月 12 日の午後、日本に帰国し、岩見沢には午後 11 時過ぎに到着予定となっております。

訪問団員の皆さんは、これから訪問団説明会や英会話教室等の準備を経て、今年の岩見沢市の代表としてポカテロに出発いたしますので、岩見沢市とポカテロ市の交流をさらに発展、継続していただけるよう、期待をしているところでございます。

また現地でいろいろ経験したことは、岩見沢市の青少年にとって良い影響をもたらしてくれるものと願っているところでございます。

質疑応答

（北海道新聞）

今年、キャンビーはなしですか。

（市長）

キャンビーは募集したのですが、1 名の応募しかなかったので、キャンビーへ応募いただいた方をポカテロ市の方への参加でいかかですか、とご相談をして、その方はポカテロの方に参加していただくことになっております。

ですから今回、キャンビーの方は派遣をしない、ということでございます。

（北海道新聞）

募集定員に対してなかなか集まらないという状態って続いているんですか。

（市長）

だいたい選考は行っておりますので、今年は少なかったということでございます。

（プレス空知）

今の関連なんですけれども、キャンビーは隔年ですけれども、今年休止するというので、また数えて 2 年後となるのか、それとも来年、もう一度実施するということになるのでしょうか。

(市長)

それは先方の受け入れていただいている方との協議になるかと思います。現時点では何も決まっておられません。

参考までにですが、ポカテロ市への訪問団の最初は私、副団長でまいりました。2回目は団長として行っております。

2 市長政策ヒアリング（サマーレビュー）の実施について

説明内容

(市長)

続きまして、市の政策ヒアリングについて、でございます。

今年のサマーレビューは7月3日から実施します。平成27年度の予算編成あるいは岩見沢市が直面しておりますさまざまな行政課題に対応していくため、施策の方向性、進め方、さらには施策の質の向上を図ることについて、議論していくことといたしました。そのサマーレビューの概要について、ご説明いたします。

まず、実施の目的でございますが、平成26年度市政方針における施策の一層の推進を図ること、また、その質・量・スピードを高めることを目的といたします。庁内横断的に連携を図りながら協議を進めたいと考えております。

次に実施の内容でございますが、1点目といたしましては、施策推進に係る庁内の意思統一、情報の共有、組織横断的な連携の強化、となっております。2点目といたしましては、行政課題解決に向けた取り組みの進捗状況の確認、今後の方針や進め方の決定、3点目として、次年度予算施策への反映及び新たな施策構築に向け協議を行うこととしております。

今回実施いたします「サマーレビュー」では、協議項目を選定いたしまして、市長・副市長と12人の部長が参加する、横断的なディスカッションの手法をとりたいと思っております。施策ヒアリングを実施するということになります。

具体的な「協議項目」といたしましては、急速に進む人口減少や厳しい経済雇用情勢などを踏まえ、優先課題といたしまして、

- ① 子ども・子育て支援施策の推進
- ② 健康寿命の延伸
- ③ 農業施策の再構築
- ④ 地域経済活性化への取り組み
- ⑤ 防災対策の強化
- ⑥ 総合的な雪対策
- ⑦ 職員の意識改革
- ⑧ 情報を活用するまちづくり
- ⑨ 北海道教育大学岩見沢校との連携
- ⑩ 人口減対策

10項目の協議を予定しているところでありまして、7月末までを目途といたしましてサマーレビューを実施したいと考えております。

質疑応答

(北海道新聞)

今回、横断的なディスカッション手法を用いるのは初めてなのでしょうか。

(市長)

去年の経験を踏まえて、行ってまいります。去年は基本的には全部長が出席して、全項目、かつ所管している事務を担当していない部長の司会進行で進めており、全体での意思統一、情報の共有というのを図ったのですけれども、今回は大きな項目については全部長、その他は項目ごとに分けまして、関係する部長毎でいろいろと詰めていって、最初と最後に全体共有を図ることにしています。

情報の共有については、部長同士の情報共有ではなく、全職員に向けての情報共有も図れるように、より一層徹底したいと思っております。

3 公共施設マネジメントの取り組みについて

説明内容

(市長)

次に、公共施設マネジメントの取り組みについて、でございます。資料の 1 ページをご覧ください。まず、公共施設マネジメントの必要性、あるいは背景といってもよろしいのかと思いますが、3 点記載させていただいております。

1 点目は、過去に建設された公共施設等がこれから大量に更新時期を迎える一方、地方財政、市の財政は依然として厳しい状況にあること、でございます。資料に記載しておりますが、ハコモノについては、約 400 施設のうち、築 30 年以上経過している施設の割合が約 4 割となっております。インフラにつきましても、個別に「長寿命化計画」を策定済み、又は策定中で、計画的な整備に取り組んでおりますが、今後、これらも老朽化が進行するということになるかと思えます。

次に 2 点目といたしまして、人口減少等がでございます。これは、政府が一昨日 24 日に閣議決定をいたしました「骨太の方針」の中の文言等を用いますと、「人口急減・超高齢化」というふうに言われておりますが、今後、公共施設等の利用ニーズが当然変化していくことがございます。

なお、昨年 3 月に公表されました国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口は資料に記載のとおりでございます。

次に 3 点目といたしまして、合併後の施設全体の最適化を図る必要性がある、ということでございます。少し具体的に申し上げますと、合併前には、それぞれの市町村が必要な公共施設などをワンセットずつ保有しておりましたが、人口の急減あるいは厳しい財政環境が見込まれる中、合併後の岩見沢市が現在保有している施設を今後もフルセットで保有し続けることは不可能であるため、類似施設の統廃合、既存施設の用途変更、施設更新の優先順位付けなど、施設の再編や適正配置を実現する必要がある、ということでございます。

参考までに、当市の人口一人当りのハコモノの床面積は、これも資料に記載しておりますが、全国平均の 1.64 倍となっております。施設の需給がミスマッチの状況にあるということを確認している次第でございます。

続いて 行政改革大綱等における位置付け、でございますが、市長に就任当初から、市役所はサービス業であり、「市」民の「役」に立つ「所」という観点から、一貫して行財政改革の必要性を申し上げてまいりましたが、昨年 10 月には他の計画に先駆けまして、新たな「行政改革大綱」をさらには、当市では初めての「中長期財政計画」を策定したところでございます。

行革大綱の基本理念は、経営型行政運営への転換といたしましたが、これはヒト・モノ・カネなどの経営資源、民間で言うところの経営リソースでございますけれども、これらの最適配分を図る、そのことより、市民の皆様の満足度を高めることはもとより、10 年先、20 年先を見据え、市民・事業者・市民活動団体など多様な担い手と行政が共に創り・協働する、すなわち“ALL 岩見沢”で、元気なまちづくりを実現したいと考えているところでございます。

行革大綱では、具体的な推進項目として、公共施設の適正配置を掲げておりまして、財政計画でも、今後の取り組むべき方向性、歳出削減の取り組みとして、物件費・維持補修費・投資的経費など、公共施設に係る経費の見直しを掲げているところでございます。

次に資料の 2 ページでございます。国の公共施設等総合管理計画策定要請でございます。これまで説明いたしましたとおり、当市では、行革大綱に基づきまして、公共施設マネジメントの取り組みを進めていくものとしていたところ、去る 4 月 22 日、総務大臣名で、全国の全ての地方公共団体の長に対しまして、公共施設等総合管理計画を策定するよう要請がございました。

この総合管理計画のポイントは大きく 3 点でございます。1 点目として、計画期間は 10 年以上とすること。2 点目として、対象施設は、市が保有する全ての公共施設など、すなわち、ハコモノに限らず、インフラやプラントも含めること。3 点目として、更新・統廃合・長寿命化など、公共施設等の管理に関する基本的な考え方を記載すること、とされているところでございます。

計画策定の効果でございますが、公共施設等のあり方は、まちづくりに直結をいたします。本計画の策定と実行は、地域社会の実情に沿ったまちづくりはもとより、国土強靱化の推進に寄与することに加え、市民の皆様の安全や安心、生命・財産を守るというリスク・マネジメントにも資するものと考えているところでございます。

最後に今後の取り組みとスケジュールでございますが、現時点における想定スケジュールを記載させていただきました。ご承知のとおり、ハコモノ・インフラ・プラントは、その数がたいへん膨大でございます。施設を所管する市のセクションや会計も多岐にわたっております。直営や指定管理者等、施設の管理形態なども多様となっているのが現実です。

本年度の取り組みでございますが、まずは各種施設の現況、また定量的・定性的な様々な情報を一元的に把握いたしまして、仮称となりますが、「施設白書」を極力、早急に作成したいと考えているところでございます。また、今後の公共施設マネジメントの基本的な考え方と方向性についても、基本方針として取りまとめたい、と考えております。

この施設白書と基本方針は、市が作成した後、適宜、市民の皆様へ公表し、市民の皆様のご財産でもある、公共施設等の現状と課題等の情報を市民の皆様と行政が共有するものとし、今後における公共施設等のあり方をともに考え、次の世代へ適切に継承することができるような枠組みを構築していきたいと考えているところでございます。

質疑応答

(読売新聞)

すべての公共施設を対象に、先ほど、統廃合を行うというふうにおっしゃっていましたが、コミュニティセンターとか児童館とかすべて含まれると思うんですけども。

(市長)

すべての施設についてすべてを検証するというところでございます。ですから今年は、施設白書をまず作ります。それから施設の果たしている機能とか今後の需要を想定して、今後の施設の現実的な、物理的な、例えば経年劣化だとか、そういったものをすべて勘案した上で施設の必要性、目的等を整理していくことになると思います。

(読売新聞)

話の進め方なんですけれども、実際利用されている市民の方々がかなりたくさんいらっしゃると思うんですけども、無くすっていう方向になると、どうしても反発の声っていうのは出てくるのかなあ、と思うんですけども。

(市長)

ですから、今年はまず施設白書を作ります。現状を把握します。それからこれをどういった観点で見直ししていくのか、という基本方針を作っていきます。それを適宜、市民の皆様にご公表してまいります。そしてステップの2では、さらにもう一段細かな今後の再編等に向けた実施推進方針ですとか、施設類型等々の基本方針、そしてステップ3で、ここで個別具体的な施設の再編の考えかたをどうするのか、というように議論を進めていく考えでおります。

(読売新聞)

どこかで住民参加型の、例えば会合等を開くとか、考えはおありですか。

(市長)

現時点で、今年は施設白書と基本方針の策定ですので、その情報は適宜オープンにしながら、また適宜市民の皆様のご意見をいただきながら、参考にしながら、次の段階、次の段階へと進んでいく考えでございます。

(読売新聞)

素朴な疑問なのですが、国からの要請でもあるのですが、上下水道や橋梁の統廃合とか更新とありますが、統廃合は不可能ですよね。

(市長)

岩見沢市も橋梁の長寿命化計画とかをすでに定めておりますし、管路も長寿命化もすでに計画を策定しております。個別に先行している物もありますし、去年の段階で公共施設のマネジメント計画を作ろう、ということで予算も措置したんですけども、

その後 4 月に入ってから、国の方からもこういった要請が来ているという状況でございます。

4 いわみざわ健康まつりについて

説明内容

(市長)

4 点目になります。6 月 29 日に開催いたします、いわみざわ健康まつりについて、ご説明をさせていただきます。

昭和 61 年に始まっておりますこの健康まつりでございますが、今年で 29 回目を迎えます。そこで今年は、市民の皆様へ、より早く健康について知っていただき、健康づくりに取り組んでいただきたいというふうに考えまして、開催時期を例年ですと 9 月、秋なんですけれども、6 月に変更し、会場も岩見沢保健センターからイベントホール赤れんが、ということで広い会場に変更して実施することといたしました。新しい企画も加えまして、より広い会場で健康に関して様々な面から市民の皆様へ触れていただき、また考えていただきたいというふうに願っているところでございます。

概要の方は、資料に記載のとおりでございますが、気功体操やヨガ教室、エクササイズの実験、心の健康や体力診断などをチェックできる健康チェック、医師や薬剤師などによる肺年齢や歯科検診、栄養相談、ひゃっぴい体操コンクール、などのほか、新しい取り組みとして、お子さまに模擬医療を体験していただくキッズ診療所、からだのゆがみチェック、骨盤力を鍛える「ひめトレ」、ノルディックウォーキング講習会、市民の健康宣言などを行うこととしています。

ご案内のとおり、平成 26 年度、岩見沢市は市民の健康寿命の延伸ということを重点に掲げているところでございます。ただ今申し上げたように、このいわみざわ健康まつりも拡充して実施をしたい、と考えているところでございます。

また併せて、これは新たな取り組みでございますが、健康ポイント事業をこのおまつりから始めさせていただきたいと考えております。これは、市民の皆様が自らの健康づくりに積極的に取り組んでいただくことを目的とするもので、30 歳以上の市民の方が対象でございますが、ポイントをためる「イワくんカード」を発行いたしまして、特定健診や人間ドックなどの受診、健康教室などへの参加に対してポイントを付与いたします。カードへの押印ということを行う訳ですが、一定のポイントがたまりますと、市内のスポーツ施設や温泉施設の利用券に交換できるということを考えております。

詳細につきましては、別途お知らせいたしたいと思っておりますが、健康まつり、あるいは健康ポイント事業を通じまして、一人でも多くの市民の皆様へ、健康づくりに自発的に、自主的に、積極的に取り組んでいただくきっかけとなれば、と願っているところでございます。

当日は、午前 10 時から午後 4 時まで開催しておりますので、多くの市民の皆様にご来場いただければ、と願っている次第でございます。

質疑応答

(プレス空知)

いま最後の方で説明いただいた、「イワくんカード」、もうちょっと細かく説明していただけませんか。

(市長)

ポイントカードは2つ折りで、折りたたんだサイズはキャッシュカードとほぼ同じサイズになっております。開いていただくと1から40ポイント貯められるマス目がございませぬ。特定健診などを受けていただくと5ポイント、押印させていただきます。これを貯めていただいて、一定のポイントを貯めた後、利用券等と交換していただくこととなります。

(プレス空知)

項目によって押すポイントが決まっているのですか。

(市長)

のちほど詳しくお知らせすることにいたしますが、例えば、市内の温泉施設、メープルロッジですとか北村温泉施設ですと、ポイント換算で30ポイント。また特定健診、健康診査を受けると5ポイント、はんこが5つ付きます。人間ドックを受けると5ポイント、併せて10ポイントとなります。この10ポイントで1つの施設利用券の単位となっております。

その施設利用券を1枚で使える場所と2枚で使える場所、3枚で使える場所を考えております。ポイント換算しますと10ポイントから使えるようにしております。ただ温泉施設を利用しようと思うと30ポイント貯めてお使いください、というような形になります。30ポイントということになりますと施設利用券3枚と交換することになりますので、その3枚を使って温泉に行くもよし、1枚を例えばトレーニングセンターに行き、残りの2枚で栗沢のパークゴルフ場に行ってもよし、というような選べる使い方となっております。

(HBC)

ポイントカードは29日から運用開始ということでよろしいのでしょうか。

(市長)

健康まつりから開始したいと考えております。そこでPRもしたいと考えています。参考までに、健康まつりへの来場で2ポイントつきます。

5 いわみざわ環境週間について

説明内容

(市長)

続きまして、いわみざわ環境週間でございます。いわみざわ環境週間は、平成20年7月の洞爺湖サミットを契機に作ったものでございまして、今年で7年目を迎え、7月1日から開催いたします。

この環境週間では、特に低温、高温、集中豪雨など、さまざまな異常気象の原因とされております、地球温暖化を防止するため、温暖化ガスのひとつである二酸化炭素

の排出量を抑制するため、効率的なエネルギーの利用、ライフスタイルの見直しなどの啓蒙・啓発に努めてまいりたいと考えております。

最初に、環境週間のメインとなるイベントでございますが、「環境フェスタ 2014」を7月5日、であえーる岩見沢の地下催事場で開催いたします。リサイクルマーケットを中心に、大型リサイクル品の販売、ごみ処理や分別・減量化についての各種展示を行うほか、午後3時から、3階の「であえーるホール」におきまして「ごみ有料化とさらなるごみ減量化に向けて」というテーマで、東洋大学経済学部山谷修作(やまやしゅうさく)教授による講演会を開催することとしております。

つぎに期間内を通しまして、環境展を開催いたします。市役所ロビーをはじめ、岩見沢駅舎の有明交流プラザ、北村・栗沢の両支所、中心市街地にありますクリーン・エコの5か所に地球温暖化防止パネルを展示いたします。

特に、有明交流プラザでは、環境美化活動パネルや太陽光発電パネル、太陽熱利用パネルなども観覧していただけます。

また、ごみ・環境総合案内所クリーン・エコでは、ごみの減量や有料化のパネル展示やリサイクルビデオを上映のほか、毎日午前10時から先着順に花苗をプレゼントいたします。なお、4日の金曜日は、午後1時から岩見沢農業高校環境造園科の生徒さんが育てたアサガオを配布することとしております。

つぎに、環境施設見学会でございますが、7月4日にクリーン・エコ、株式会社北海道 LIXIL(リクシル)製作所、栗沢クラインガルテン、リサイクルセンターをバスで回りながら視察していただき、地球温暖化やエネルギー、ごみの問題につきまして考えていただきたいと思っております。

また、いわみざわ環境美化の日として、7日には1条から4条の間の、中央通りから駅前通りまでの歩道を清掃する、まちなか環境美化活動を環境週間イベントの締めくくりとして実施いたしますので、できるだけたくさんの市民の皆様にご参加いただければ、というふうに思っております。

質疑応答

なし

6 2014 いわみざわ彩花まつりについて

説明内容

(市長)

今年のいわみざわ彩花まつりについて、ご説明をさせていただきます。岩見沢市の五大祭りの一つである2014 いわみざわ彩花まつりを7月7日から13日までの1週間にわたり、ばら園、あやめ公園、中心市街地、駅東市民広場公園などで開催いたします。

7月11日の午後6時から、昨年は24団体、1,336人の市民参加をいただきました観光踊りパレードを実施いたします。

土曜・日曜日のイベントといたしましては、北海道を活動拠点としたアイドルグループ7団体によるアイドルライブショー、小・中学生が参加するヒップホップグルー

プ、成人女性のフラダンスグループなどが参加するダンス・ダンス・ダンス、セミプロ歌手の方による昭和ノスタルジアコンサート、農産物の販売を行う農産物フェアなどを行います。

また、13日午後8時から、北海道グリーンランド遊園地におきまして、恒例でございますが花火大会を開催いたします。

なお、今年の彩花まつり全体の入り込み客数は、118,400人ということでございました。

詳細は後ほど、岩見沢市観光協会からプレスリリースが出されますので、よろしくお願いたします。

質疑応答

なし

7 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（北海道新聞）

駅前ビルの跡地、更地になりましたけれども、その後、何か進展はありましたでしょうか。

（市長）

更地になりまして、いま民間事業者によりまして、デベロッパーによります開発の可能性ということで、いろいろと関係方面と調整を進めているという状況でございます。

（プレス空知）

前回の記者懇談会でも説明があったと思うんですけども、駒澤跡地、今月末を目途に基本合意を進めたいということだったんですけども、もう来週には月末を迎える訳ですが、どのような状況なのでしょうか。

（市長）

いま、基本合意に向けての文案のやりとりをしまして、ほぼ落ち着いてきたところです。6月30日に駒澤の本学で理事会が開催される予定なので、そこで正式な文案が確定することになるかと思えます。その理事会の決定を受けて、基本合意を締結するというので、現段階で、いつ、ということは決まっておりません。

（プレス空知）

ということは、市としては、最後のボールを投げてあって、それを最終的に30日の理事会後に。

（市長）

お互いで協定内容のやりとりをしまして、ほぼ、この文案で、ということが整っているんですけども、組織の決定上、学校法人駒澤大学では理事会の決定を経た上でなければ正式な意思決定とならないので、正式な決定を受けた上で、岩見沢市と駒澤大学との基本協定の締結、ということになります。

(プレス空知)

そうすると最終的な決定は月をまたぐということになりますか。

(市長)

またぐかも知れません。30日に決定し、30日に来ていただければ締結できますけれども。内容の確認は済ませてありますので、あとは手続きで、30日に理事会を開催するというございますから、その後になります。

(プレス空知)

基本合意の締結にあたっては本学の方から市の方に来ていただいて行うことになるのでしょうか。

(市長)

そうなるであろう、と思います。

(読売新聞)

札幌市で職員の不祥事が最近クローズアップされているんですけども、そういった意味で、こちらの市でも事務作業の手順等の点検は行ったのでしょうか。

(市長)

入札情報の漏えいについての件でしたら、その点は、私ども契約担当ということで、過去を振り返りながら、より一層の徹底をいつもはかっております。国の制度が大きく変わるなどして、コンピュータのシステムを大きく変更しなければならないですとか、いろいろな課題も出てくるわけですけども、その都度、ミスの起きないようにことに留意して対応させていただいております。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)